第4回 東京大学 地域連携シンポジウム

学生×地域の連携

～学びと実践が拓く地域の未来～

参加費 無料

東京大学では、社会貢献活動として多くの地域連携事業が行われています。
本シンポジウムは、現在、全学や各部署で展開している事業間の情報共有の場を設け、同様の課題を有する地域同士の連携を促進することを目的としています。

日時 2026年1月28日（水）
15時00分～17時00分（開場14時30分）

会場 本郷キャンパス・山上会館大会議室
＋オンライン（Zoomウェビナー）

参加方法：
会場、オンラインともに事前申込となります（当日申込可）。
右の二次元コードより各々お申込ください。

会場参加用　オンライン視聴用

Program

司会：**丹下 健** 東京大学特任教授／社会連携本部副本部長

1 開会挨拶・シンポジウム趣旨説明　**津田 敦**
東京大学理事・副学長／社会連携本部長

2 講演①「FS学生から自治体職員へ ～2つの立場から見る地域連携の意義～」

小堀 陽平
鳥取県輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局中山間・地域振興課・課長

3 講演②「能登は可能性に満ちている ～東大FSプログラム・能登町支援チームの活動から～」

灰谷 貴光
能登町役場復興推進課・主幹

4 講演③「地域と建築家」

川添 善行
東京大学生産技術研究所・准教授

5 講演④「他人事を自分事に ～当事者性を育む地域連携活動を考える～」

牧野 篤
大正大学地域創生学部・教授（東京大学名誉教授）

6 トークセッション

講演内容のほか、現役学生から自身の地域連携活動の経験や、地域連携活動を通して学んだことなどをお話しする予定です。

モデレーター：
秋山 聰　東京大学副学長／社会連携本部副本部長

登壇者：
津田 敦　東京大学理事・副学長／社会連携本部長
小堀 陽平　鳥取県輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局中山間・地域振興課・課長
灰谷 貴光　能登町役場復興推進課・主幹
川添 善行　東京大学生産技術研究所・准教授
牧野 篤　大正大学地域創生学部・教授（東京大学名誉教授）
飛田 映月　東京大学教養学部2年

7 閉会挨拶
秋山 聰　東京大学副学長／社会連携本部副本部長

問合せ先：**東京大学本部社会連携推進課**
e-mail：ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

主催：東京大学 社会連携本部、UTokyo Compass推進会議価値創出分科会

UTokyo

第４回 東京大学 地域連携シンポジウム

学生×地域の連携
～学びと実践が拓く地域の未来～

●今回のシンポジウムでの講演内容

講演 ①「FS学生から自治体職員へ　～2つの立場から見る地域連携の意義～」

小堀 陽平　鳥取県輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局中山間・地域振興課・課長

講演内容

フィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）が立ち上がった2017年に同プログラム１期生として参加し、長野県チームの一員として同県千曲市にある戸倉上山田温泉の活性化にチャレンジしました。その経験が一つのきっかけとなって総務省に入省し、現在は鳥取県庁で中山間地域振興や地域づくりに再び携わっています。本シンポジウムでは、大学から地域連携活動に参加した学生、地域づくりを行政課題として取り組む自治体職員、２つの立場を通じた経験から、学生と地域の連携が学生・自治体・地域それぞれにとっていかなる効果を及ぼすのかを紹介します。

講演 ②能登は可能性に満ちている ～東大FSプログラム・能登町支援チームの活動から～」

灰谷 貴光　能登町役場復興推進課・主幹

講演内容

能登町は、2017年からフィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）として学生を受け入れてきました。2024年1月1日、7期目の活動中に能登半島地震が発生しましたが、学生たちは発災直後に「FS能登町支援チーム」を結成し、復興支援に尽力してくれています。能登町の復旧・復興の現状と、学生たちの具体的な活動を紹介します。また、震災を経て、受入の意義が「学びの場の提供」から「共に課題に立ち向かうパートナー」へ。未曾有の危機に直面した地域だからこそ感じる、知識を行動に変える東大生への期待と、これからの地域連携についてお話します。

講演 ③「地域と建築家」

川添 善行　東京大学生産技術研究所・准教授

講演内容

これからの建築家の役割は、建物を設計する行為を超えて、地域の未来をともに構想する営みとなっていくことでしょう。地域の歴史や地形、文化を丁寧に読み解き、多様な主体と協働しながら計画を進めることで、建築は単なる施設ではなく、地域の変化を導く「場」となります。また、建設後の使われ方や運営まで視野に入れ、時間とともに価値が育つ環境をつくることも建築家の役割です。物理的・社会的・時間的価値を併せ持つ建築は、地域の潜在力を引き出す装置となりえます。本講演では、地域と建築家が互いを更新し合う関係について、具体的事例を通して考察します。

講演 ④「他人事を自分事に ～当事者性を育む地域連携活動を考える～」

牧野 篤　大正大学地域創生学部・教授（東京大学名誉教授）

講演内容

少子高齢化・人口減少に典型的に示されるように社会の諸構造が未曾有の変化を見せる中、旧来の社会制度が疲弊し、人々の生活を脅かしています。標準形の人間像をおいて、人々をマスとして処理し、社会・経済政策を立案して、人々のニーズを満たすことができる時代が終焉を迎えているのです。それは、標準形の人間像にもとづいて設計され、構築されてきた学校という選抜制度が機能不全を来し、その勝者／敗者であることの意味が大きく変容しているということでもあります。新たな社会では、人々は個別化し、多様化／多元化する価値のありように応じて、自らがアクターとして役割を担わざるを得ません。このような社会にあって、学生がフィールドスタディに出かけ、地域の人々の生活に学ぶとはどういうことなのか、ともに考えたいと思います。

フィールドスタディ型政策協働プログラム（FS）

地域課題解決に向けて、東京大学の学生が解決の道筋を提案することを目指して活動するプログラムです。学生は、地域から提示された課題に対して、チームで協力しながら活動を進めます。地域の現場では多様な関係者との対話や関係先の訪問等を通じて、現状について身をもって体験・把握し、時には学内の知見を有する教職員の協力を得ながら、課題解決の糸口を探ります。事前調査、現地活動、事後調査を通じて、一年をかけて解決の道筋の提案を行います。

体験活動プログラム

東京大学の学生が今までの生活と異なる文化・価値観に触れることができる体験型教育プログラムです。学びと社会を結び直すこのプログラムは、本学が目指す「共感的理解に基づいた対話を通した信頼の構築」のひとつの実践の形であり、さまざまな体験を通じて多様な人々と出会い、未知なるものを知ろうとすることで、知の探究を進める力を身に付けることをねらいとしています。フィールドは国内外問わず、内容はボランティアなどの社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験など、多岐にわたっています。